

第33回総代会の発言(要旨)

後期高齢者医療制度について



大森中診療所事務長 剣持 さん

この新聞は、東京都の医師会が1面を使って載せた「東京宣言」です。75歳以上の方へ、今まで通り検査をするなどの内容が書かれています。大分県の保険医療協会は、後期高齢者医療制度を皮肉った川柳の投稿を紹介しています。「終末期、枯れ木に水はやるなかれ」「乳母捨てを長寿医療と言つとやら」「後期でも意地でも生きる百まで」は。

東京大気汚染公害裁判とぜん息無料化について



うのき診療所 金子 さん

この裁判は96年に提訴し、昨年8月の「勝利和解」に至るまで、100人以上の原告が亡くなり

なりました。和解条件として、都内に居住するぜん息患者の医療費を無料にする条例が成立しました。これからのとりくみで大切なことは、申請する人を広げていくことです。大森中診療所でも、申請相談コーナーなどもとりくんできましたが、今後

東京生存権裁判について



馬込支部 原告 榎原 さん

私たちが城南3法人では、この間73回の学習会を開催してきました。反対署名は、8575筆です。今後も学習会の依頼が多く、関心が強まっています。大森中診療所に行く患者さんからも不安の声が数多く寄せられています。中止・廃止しかありません!! 引き続き組合員のみならずとがんばっていきます。

組員のみならずには、いろいろご協力いただきありがとうございます。昨年2月14日に提訴をし、今年7回目の口頭弁論が行われました。そして、いよいよ6月26日に判決が言いわたされます。誰もがさまざまな理由で生活に困窮することがあります。国民に「健康で文化的な最低限度の生活を保障する」のが生活保護法です。ところが国は、高齢者と母子家庭の生活保護費を大幅に切り下げました。「公正な審理と判決を要請する署名」は大田区でも1万5000筆集める予定です。



ユーモアあふれる発言に笑い声も

5月12日、結果をまとめて区長へ提言書を提出しました。6月7月に大田区は施策を決めようとしているので、「劣災」「公害」の2つの面を位置づけてとりくんでいきます。なお、大田区、品川区でアスベストにより被災されたと思われる情報(工場、人など)があれば、安心・安全のまちづくりの観点からもお寄せください。

アスベスト問題について



アスベスト被災対策大田連絡会事務局長 色部 さん

2月14日は、バレンタインデーでもあります。朝日訴訟の朝日さんの命日でもあります。この裁判は第2の朝日訴訟裁判と位置づけています。今後ともご支援をお願いいたします。

アスベスト被災対策大田連絡会は、06年9月20日に立ち上げました。この間、調査活動をねばり強く行ってきました。大森南4丁目にあった石綿工場(宮寺石綿)周辺の住民にアスベストによる健康被害が出ており、大田区は2月1日〜3月7日にかけて健康調査を実施しました。対象者は大森南地域と大森東4〜5丁目です。検診の受診者総数は926人でしたが、45人は予約しましたがキャンセル待ちとなり検診を受けることができませんでした。要精密検査対象者は96人、胸膜ブランク所見者は45人となりました。

すずらん(訪問介護事業所)の状況について



ヘルパーステーションすずらん 所長 藤 さん

城南保健生協には、4つのヘルパーステーションがあります。07年の前半くらいまでは、利用者数も安定していましたが、07年後半から介護保険制度の激変により利用者数も減り、ヘルパーさんの働き方も難しくなってきました。介護保険制度がはじまったころは、ヘルパーさんが掃除、買い物などできたのですが、現在は生活援助への制限がかなり、近くにご家族が住んでいる人への介護ができません。介護職員の働き方も不規則となり、ヘルパーをやる方も少なくありません。

私たちの仕事は、寝たきりで何もできなかった方が、ボタンを自分で付けられるようになることを一緒に喜び、そのことに誇りを持ちやがいを感ずる仕事です。介護保険制度を改善して、介護する側もされる側も充実したものにしていきます。

社会保険蒲田総合病院の公的存続と分娩再開を求める署名について



六郷支部 藤 さん

社会保険庁の病院は東京に4カ所あります。ご存知のように、社会保険庁は「消えた年金問題」などさまざまな問題があります。今回の「分娩中止」は採算優先、もうけ主義を先取りした形だと思えます。大田区では年間5500人の新生児が生まれています。蒲田総合病院が分娩中止をすると、約500人の分娩が減ることになります。今でも分娩で救急車で運ばれた方が、大田区内の病院では受け入れられずに川崎市で分娩したというケースもあります。分娩難民をつくってははいけません。地域で60年利用されてきた病院です。子どもは日本の宝です。ぜひ署名にご協力をお願いします。

みちづかが開所して5年が経過しました。開設当時の入居者さんは3人です。亡くなら

れた方や他の施設に移られた方などもあります。しかし、すぐに新しい方が入れられ、いつも9人の方が入居している状況です。3月にはじめて男性の入居者を迎えました。女性ばかりの場所、どうなるのかと心配しましたが、8人の女性陣が男性に優しく接してほほえましい光景です。



虹の家みちづか 所長 橋本 さん

ゆたか診療所でデイケアサービススタート



ゆたか診療所 福田 さん

ゆたか診療所でデイケアサービスがスタートしました。月曜(金曜)で1日15人が定員です。お風呂がありますが、お一人30分くらいかかるので、1日のお風呂の定員は5人くらいです。リフト付きの送迎車でお迎えにいきますので、車イスの方でも大丈夫です。内容は、ゲームや創作、塗り絵、ちぎり絵などを

ゆたかの家の状況について



ゆたか支部 古口 さん

いよいよ2カ所目のグループホームの建設工事がはじまりました。今度の場所は隣に保育園があり、入居者の方々にも良い環境になると思っています。組合員のみならずには、引き続き増資をよろしく願います。

ゆたか病院がゆたか診療所へ変わり、ゆたかの家もゆたか診療所内に移転しました。いろいろ大変でしたが、地域の方への説明会を行う中から前進してきました。07年末からゆたか診療所が黒字に転換してきた報告もあり安心しました。そんな中で、ゆたかの家では、後期高齢者医療制度の学習会、原水爆禁止世界大会の報告を兼ねて野外ピクニック、バレンタイン行動、市民後見人制度学習会、いつでも元気読者会なども行い活動が広がっています。また、5月1日よりゆたか診療所

うのき雪谷支部では、格差社会、孤独死などの問題について話し合いをすすめてきました。その中で、できることから行動していくと確認し、矢口都営住宅の「生協組合員さんお元気ですか訪問行動」を行いました。矢口都営住宅は15号棟と16号棟あわせて600世帯の方がお住まいです。とりわけ15号棟は242世帯中約60%が一人暮らしの高齢者です。毎年孤独死があり、今年の2月も2人の方の孤独死がありました。また自殺者が多いのも事実です。うのき雪谷支部では、毎月、前の公園で青空相談会を行っています。また、先日28世帯の組合員さん宅を訪問し、さまざまな話を聞くことができました。今後も運動を続けていきます。

大森西北支部のとりくみについて 大森西北地域では、スーパの前をお借りして青空健康相談を行ってきましたが、天候などに左右され、なかなか定着しませんでした。しかし、小学校の統廃合でコロナ大森ができて、さまざまな活動ができるようになりました。地域世話人会で「一人暮らしのお年寄り」が外に出てこられるような内容を行っていくと確認し、血圧測定、体脂肪測定、骨密度測定、尿チエックをはじめました。もともと魅力ある集まりにと、「抹茶接待」「体操」なども取り入れて行っています。参加者は1年間で延べ160人を超えました。また、独自に「健康ニュース」を発行して、約1000世帯に配布。ご意見もいただきながら、後期高齢者医療制度の学習会なども行いました。参加された方から「食事のことで家族と話し合うキッカケになった」「血圧の相談をして、病院に行き自己管理できるようになった」などの声も寄せられました。